

JEMIC

計測サークル ニュース

No. 1 VOL. 44

- 第25回国際度量衡総会 (CGPM) を終えて…… 1
- アドバンスト・不確かさ学！
第10回「ばらつきを整理しよう！－分散分析と不確かさ②」…………… 7
- ひずみ校正器及び指示計 (直流・交流電圧比) の JCSS 校正…………… 12
- 電球形 LED ランプの製品試験について…………… 14

目次

第25回国際度量衡総会 (CGPM) を終えて

産業技術総合研究所 計量標準管理センター

国際度量衡委員 臼田 孝

1. はじめに

国際度量衡総会 (Conférence Générale des Poids et Mesures、略称 CGPM) は、メートル条約下の最高議決機関である。第1回 CGPM は1889年に開催され、メートルとキログラムの国際原器が承認され、加盟国へ副原器が配分された。その後も単位の定義改定や CIPM-MRA (国家計量標準に関する相互承認協定) の導入など、国際計量標準に関わる多くの重要な決議が CGPM でなされている。

今般第25回目となる CGPM が、2014年11月18日～20日にフランス・ベルサイユで開催され、筆者は日本代表団の一員として、また国際度量衡委員 (CIPM 委員) として出席する機会を得た。CGPM の主要決議については、既にいくつかのメディアで取り上げて頂いた [1、2]。また国際度量衡局 (BIPM) のホームページでも総会終了直後からいち早く決議全文が掲載されている [3]。そこで本稿では、決議の概要と共にその背景、それによってもたらされる影響、各 NMI (国家計量標準機関) の対応等を概観し、決議内容の意味するところを考察してみたい。また、CGPM そのものを通じて筆者が感じたことも皆様にお伝えしたい。

2. 第25回 CGPM の決議

本 CGPM では、ベルサイユ国際会議場に46の加盟国の代表、20の準加盟国・経済圏の代表など総勢185名が一堂に会した (写真1)。CGPM は1960年代以降、ほぼ4年に一度の頻度で開催されているが、前回第24回は2011年に開催されており、例外的に3年ぶりの開催となった。



写真1 会議場における CGPM の開催風景

議題は以下の5つであった。

- A. 国際単位系 (SI) の今後の改定について
- B. 国際度量衡委員会 (CIPM) の選挙について
- C. 国際度量衡局 (BIPM) の年金及びその基金について
- D. 2016年から2019年までのBIPMの歳費について
- E. CIPM 相互承認協定の重要性について

3日間の会期中、最終日の午前中まで各議事に関連した報告、講演などが行われ、最終日の午後に採決・投票による決議がなされた。以下に各議題と決議の要点を記す。なお、CGPM の慣例により議題はアルファベットで、決議は番号で呼称する。通常、議題Aに対して決議1、B以下同様、となるが、廃案や議題の追加取り下げがあった場合は決議の番号はそれに応じて前後する。本CGPMでは全ての議題が決議に至っており、A～Eの議題に係る決議はその順に1～5ということになる。